

年 頭 の ご あ い さ つ

社団法人北海道林産技術普及協会
会 長 竹 内 久 彌



明けましておめでとう御座います。平成9年の歳の初めを会員の皆様共々にお祝い申し上げます。

さて、昨今、日本を取り巻く経済環境は、誠に苦渋に満ちたものでありまして、最近では「不況」とか「低迷」といった状況をはるかに越えて、「閉塞状態」という表現が使われております。この「閉塞状態」を打開するためには、大幅な規制緩和や行・財政改革よる他はないという議論になっております。

私たちの林産—木材産業は、平成8年は好調な住宅建設に支えられて、どうにか良い方向に向かいつつあった訳であります。後半に至りまして、「円安」を原因とする、原材料費、エネルギーなどの値上がり響いて来ておりまして、本年四月の消費税の値上げは、未曾有の衝撃波を与えることは目に見えております。

このような厳しい情勢の中にあつて、私たちの木材産業は、一時も気を緩めることなく、次々に生まれる新しい情勢に対応し、或はこれを先取りして行くという、不断の努力が求められ続けて行く訳であります。

北海道林産技術普及協会は、こういった産業界の努力に対して、情報面から支援し協力して行く団体であります。資金的に見ても、スタッフの面から見ても、決して強力な団体とは言えませんが、幸なことに、世界的にも一流と評価されている北海道立林産試験場のご協力が得られるという好条件に恵まれております。これからの経済—社会情勢は、林産試験場と木材産業をつなぐ北海道林産技術普及協会の役割を、ますます強く求めて来るものと思っております。

協会主催の夏のイベントのひとつとして、昨年から、「北海道親子日曜大工教室」というものを始めております。これは、親と子が一組になって、お互いに助け合つて、人工林からのトドマツを使って、ひとつの作品を仕上げるという催しです。こういった企画の中から、人工林トドマツが広く市民に理解され、同時に親と子のシンシッパという将来も望ましい、暖かい人間関係の形成に役立てば、と願つて始められたものであります。第一回の結果は、大好評でありまして、74組の親と子が、真夏の一日、一緒に健康な汗を流し、ガーデンセットやプランターなど、思い思いの傑作を仕上げて行きました。このように林産技術普及協会は、タイムリーなイベントを通じて、時代の要請を敏感に捉えて、産業界にも一般市民にも、有益な情報発信を続けて行きたいと考えております。

機関紙「ウッディエイジ」はお陰様で、この新年号で521号を迎えることになりました。この機関紙はわが国で最も優れた木材専門誌であり、最も実戦的で、最も速報性が高く、最も親切な雑誌であります。常に読者の立場に立ち、皆様のお役に立つ最新のテーマを、読みやすい編集で会員の皆様にお届け出来るように努めてまいります。この優れた木材専門誌が益々充実して、より良い雑誌に発展して行くように、会員の皆様のより厚いご支援を、この場をお借りしてお願い申しあげる次第であります。